

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1970600167		
法人名	医療法人 桃潤会		
事業所名	在宅福祉施設カーム三珠		
所在地	山梨県西八代郡市川三郷町上野2968		
自己評価作成日	平成23年10月11日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19">http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=19</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	山梨県社会福祉協議会		
所在地	甲府市北新1-2-12		
訪問調査日	平成23年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営方針を基に今年のテーマとして利用者様が安心して生活が送れるよう基本に戻り、環境及び職員のスキルアップを目指す。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

敷地内に老人保健施設や通所介護・通所リハビリテーションがあり、協力体制が出来ている事は働いている職員にとって安心である。建物は施設らしいが、足を踏み入ると非常にアットホームな雰囲気を感じる。利用者と管理者と職員との会話がごく自然であり、中庭に植えられた植物や日の光を受けて揺れている洗濯物から家庭らしさが感じ取れる。職員の離職が少ない事もうなずける。毎日の食材の買い物や畑仕事・食事の手伝い等で1日を過ごし、年2回の交流会や運動会等地域の行事への参加の機会も作り、心身共に生き生きと生活出来る様な支援が出来ている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

事業所名 在宅福祉施設カーム三珠

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(赤ユニット)	(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との調和を理念に掲げ、地域との連携が図れるよう努めている。運営推進会議を通じて、町の福祉課と民生委員さんとコミュニケーションを図っている。	左に同じ	職員間で話し合い地域密着型サービスを意識した内容の理念に改めた。それを事務所内に掲示し、何か問題が起きた時はその理念に立ち戻って考えている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進会議を通じて施設の事情を常に理解してもらっている。		毎日食材を買いに出かけるが、知人に会うと話をしたりお菓子をいただく等の交流の機会となっている。保育園の運動会には、園児と一緒にパン食い競争を楽しんだりしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地元の社協の皆さんに、施設で行う行事のボランティアに来ていただいたり、施設見学などもしていただいている。今後は施設側から外に向けて活動を試みたい			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2カ月に1回行い、活動状況を報告している。ご家族の参加もあり、施設に対しての要望等を聞きサービスの向上に活かしている。		会議には利用者と家族が組んで参加している。畑や室内で作れる野菜についてのアドバイスを頂いたり、町からのイベント情報を聞き反対にベッドの空き情報や行事等を伝え、意見交換している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に毎回参加していただいている。(介護係課長・包括支援)又、相談等にも関わらせていただいている。		管理者が町の高齢者福祉計画の理事をしている関係で情報を得たり、提言したりしている。また、2ヶ月に1度のケアマネ連絡会には必ず出席し行事や様々な情報を交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ドアの施錠を開放し、利用者に自由な行動をさせていただいている。		車椅子利用者はいない。外気浴が出来る中庭もある。全体的に落ち着いた雰囲気である。スピーチロックについては「先輩に対する言葉かけ」という視点で管理者が常に意識必要時は注意している。乱暴な言葉遣いは聞かれない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルに基づいて職員に徹底している。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用している利用者があり、成年後見制度について勉強している。又、必要な利用者にも成年後見人制度の活用を伝えている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書と利用約款を使用し、十分な説明を行い、理解・納得していただいている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(赤ユニット)	(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議にご家族の参加を促し、会議の中でご家族からの要望・意見等を聞き、それらを運営に反映させている。又、担当者会議の中でも意見要望等を聞いている。その他意見・要望等を気軽に話やすい雰囲気作りが心がけている。		家族同士の触れ合いの場として親睦会を年2回開催している。また、意見が出しやすい様にアンケートをとったり、意見箱を設置している。外出の場所について「身延山は坂で大変だった」というような意見があり参考になっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務中に管理者とコミュニケーションを取る時間が十分にあり、いつでも相談や意見を発言できる環境にある。		管理者と職員は気軽に話が出来る関係にあり、賃金・職員数・休暇・備品の購入についての要望等がある。法人全体の運営会議にはそれらの意見・要望を汲み上げて参加している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業関係については、管理者が職員とのコミュニケーションを図り、理事長に伝え労働時間は勿論の事、給与水準など周りの施設の情報なども代表者に伝える仕組みが出来ていると思う。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者が全国のGH協会の役員で全国での実態を情報収集して取り入れ良い所は実践に結びつけようと思掛けている。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	年3回のグループホーム協会の研修の場を設け、同業者交流する機会を作っている。その他、全国GH協会での情報を取り入れている。利用料やサービスの情報を全国より取り入れ、比較・検討している。			
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人と話し合う場を作り、困っている事や不安な事を聞き安心して生活できるよう努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居するまでに気軽に訪問していただき話せる雰囲気作りが努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族の実情や要望について、しっかり把握できるよう努めている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家族から本人の情報や趣味などの情報を出来るだけ得て、本人らしい生活が送れるよう心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(赤ユニット)	(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時には近況を踏まえ話しをしている。又、本人の要望等を叶えられるようにご家族にも協力を得ている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に入居者の居場所を伝えてもらい施設に訪ねてくれるようお願いしている。気軽に面会出来る雰囲気作りに努めている。		馴染みの物の持ち込みは自由となっている。2ヶ所の畑を利用しており、施設内の畑の他に町から1ヶ所畑を借りており、畑の近くの人のお付き合いがある。また、油絵や習字を習っていた利用者や、外食に出かける利用者もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の性格・好み・能力等を把握し、日常の中でそれぞれの入居者が活躍できる場を提供しながら自然なコミュニケーションを促進している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された後も、関わりを必要とされる場合、その後の相談・支援を行いたい。			
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者個々の生活歴を把握し、希望に添えるよう努めている。困難な場合には利用者本位に検討し、希望に少しでも添えるよう努めている。		個々に意向を聞くと本音が出る。「家の畑が心配だ」という利用者の家族に働きかけ畑を見に行き元気になった利用者もいる。家族からは「どんな人だったのか？」と聞き、少しでも利用者を理解する様に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご家族との面談の場で情報収集している。又、面会時にコミュニケーションを取りながら情報収集している。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の変化や心身の状態を具体的に記録し、有する能力・心身状態など職員間で共有している。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議の中で、ご家族と本人から要望等を聞き日常生活に取り入れている。又、職員間で随時カンファレンスを行っている。		利用者・家族の意向を入れた介護計画となるように努めている。ケアマネジャーが経過記録や担当者の意見を参考にしてモニタリングを行ない、6ヶ月に1回介護計画の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を個別に記録し職員間で情報を共有している。			

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価		
			ユニット名(赤ユニット)	(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自分らしい生活が送れるようその時々生まれるニーズに出来るだけ対応していきたい。町のサービス利用も検討する。				
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し今後困難事例等が出た時には地域資源等を活用していきたい。				
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時にかかりつけ医を決めていただき、気軽に相談出来、適切な医療が受けられるよう医療機関を確保している。利用者の体調が不安な時は併設されている老健の医師の回診をする。		個々のかかりつけ医があり、受診は家族が対応とし、必要な事はメモで知らせている。家族の都合により職員も付き添う事もある。体調の異変時は老健の看護師に相談し、緊急時には近隣の病院にお願いする。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	普段と様子が違う時には看護師に相談し、必要に応じては病院受診している。又、病院受診時には日常の様子を主治医宛てに手紙を書き情報を伝えている。				
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にはサマリーを作成し、情報を共有している。又、入院中の様子などを病院関係者と連絡を取っている。				
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した時の対応として、入居時に特養の申請を勧めている。又、施設内で重度化した時には、早めに病院受診し早い段階から対策を取っている。		入所時に、歩行不可となった場合は転出という話はしてあり、その相談にもなっている。基本的には施設で看取りをしない。今年度は経過的に94歳の利用者を看取った。これからも看取りまではしないが利用者や家族が困らないように支援していく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に併設の施設と合同で、救急時の対応等の研修を消防署を含め行っている。				
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	併設の施設と共に避難訓練を行っている。その他、地域の防災訓練に参加している。		施設独自のマニュアルがあり、年2回の避難訓練を実施している。避難経路については全職員が周知している。非常食は施設で準備してあるが、想定外の災害も考えて、家族にも3日分の用意をお願いしている。	強度な耐震建築であっても、想定外の地震が起こる可能性もあり、夜間の停電等も含めて地震の避難訓練の充実を期待する。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>							
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシーを損なわないよう職員間で心掛けている。又、気づいた時にはその場で注意するようにしている。		利用者の尊厳やプライドを損なわないように支援している為か、施設内が伸び伸びしていても落ち着いた雰囲気である。記録等の個人情報は事務所の中でしっかり管理している。		

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価		
			ユニット名(赤ユニット)	(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	表情や仕草などを注意深く観察し、本人が希望を表したり自分で判断できるよう支援している。				
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	GHの日課に沿って日常生活を過ごしているが、本人の希望を確認し、拒否が強い時には無理しないよう支援している。				
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類は昔着ていた服などを持参してもらっている。又、施設に衣類販売が来た時などは、自分で好みの物を購入できる環境を提供している。美容院などの希望あればそれに沿うようにしている。				
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の能力に合わせて、出来る事を職員と一緒にやっている。			調理の下ごしらえ、片付け等は利用者の特性に合わせて手伝って頂く。畑で取れた食材も使うが毎日買い物にも出かけている。誕生日のお祝い食は当人の希望を入れている。療養食の対応もしている。楽しく会話しながら食事している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分制限がある方や、特別食の方に配慮している。個々に食事量・水分量のチェックを行い必要なエネルギー摂取できるよう努めている。				
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に口腔ケアを行っている。利用者の能力に応じ一部介助しながら行っている。1か月に1回歯医者が往診に来てくれ、口腔ケアチェックを行い、指導を受けている。				
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人の排泄パターンを把握してトイレ誘導し、自立に向けた支援を行っている。			車椅子の利用者はいないが、トイレの入り口は押し開き式ドアになっていて使いやすい。トイレ使用者は多いが、トイレ内は広くきれいで臭いもない。排泄の自立への支援が出来る。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い食品の摂取に心掛けている。又、散歩等も積極的に行っている。				
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	各ユニットごとに隔日に入浴している。タイミングに合わせて入浴に誘導している。又、1番風呂に入りたいとの希望等を優先している。			入浴は週3回ある。拒否の時にはタイミングを計って再度声掛けしている。午前中入浴の希望の人もいる。また仲良しで二人で入る利用者もいる。	

自己	外部	項目	自己評価(実践状況)		外部評価	
			ユニット名(赤ユニット)	(青ユニット)	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼寝の習慣がある方などにはその習慣を尊重している。一人一人の生活習慣を尊重し、夜間消灯の時間が過ぎても談笑できる場を設けている。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋より薬の内容・副作用等を把握している。又、薬の変更等での副作用にも注意を払っている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴に合わせ、個々が喜びのある日々を過ごせるよう買い物・畑仕事・掃除・洗濯たみ等を依頼している。			
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	1か月に1回外出の機会を作り、季節にちなんだ場所へ外出している。又、買い物に行きたい方は買い物に行けるよう支援している。一人一人の希望に沿ってはなるべく出来るように支援していきたい。		季節にちなんだ楽しみの外出計画を担当職員が立てている。実施後は家族や利用者の感想を聞き次回の参考にしている。日常的には畑作りや買い物の機会もあり、中庭へのちょっとした外気浴も出来る。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には利用者のお小遣いは預かり職員が管理している。自己管理ができる方は少ない金額を財布に入れ管理している。支払能力がある方は、自分で支払うよう支援している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話をかけたいという方には、かけるお手伝いをしている。知人・家族に手紙等を書き、送る作業を予定している			
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節にちなんだ掲示物を作成し、季節感を取り入れている。又、散歩に出かけた際、季節の花等を摘みフロアに飾っている。		居間と続いている食堂も適度な広さがあり、飾り物等も落ち着いた雰囲気がある。中庭に干してある洗濯や植物・飼っている犬からも居間までの生活の継続を感じる。トイレ・浴室も掃除が行き届いていた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にベンチを設置したり、畳にこたつ等を用意し利用してもらっている。職員が同行し、外に散歩に出かけている。			
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人にとって馴染みの家具等を持ちこんでもらうようご家族に促している。共有空間や各時の居室の整理整頓及び家具の配置等の見直しを行う。		居室は畳と床の二種類あり、利用者が選択出来る。ベッド・布団等の寝具一式とカーテン・洗面所以外は本人の私物となっていて、それぞれの利用者が自由に居室づくりを行なっている。趣味等を行なっている様子も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各個人の能力に見合った作業(食事作り・支度・掃除・洗濯干し等)をこちらからお願いしている。			